

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース等
第2104回★ ボンボン山	11/2(土) JR高槻駅 9:00 集合	大槻雅弘(703)	JR高槻駅-原立石…神峰山寺…本山寺…ボンボン山…釈迦岳…善峰寺…小塩-阪急東向日
備考 電車は各自乗って、JR高槻駅北口市営バス2番のりば、9時集合とします。市バス原大橋方面行9:07分に乗車、原立石下車します。			
第2105回★ 平成8年度 一斉清掃登山 天王山	11/10(日) JR大山崎駅前 9:00 集合	鷲見敏一 (643-3391)	
主催 京都府山岳連盟(協力 京都府各市町) 午前中には終了予定、ご協力をよろしく願います。			
第2106回★★ 弥山と八経ヶ岳	11/11(月)~12(火) 五条烏丸 集合	吉田 武(654)	参加費 6,000円
(行程) 11日 京都-名張-吉野町(R169)-和佐又スキー場(泊) 12日 和佐又~行者還林道(駐車)…弥山, 八経ヶ岳往復-吉野-名張-京都			
第2107回★★ 自転車登山 十三石山	11/16(土) 上賀茂MKボウル前 9:00 集合	岡田茂久(790)	上賀茂MKボウル~山幸橋-万寿峠~十三石山
ほんとに近郊にありながら何十年も登りそびれたままです。 自転車ツーリングで行きます。参加者は、担当者まで連絡してください。			
第2108回★ 秋のハイキング (大木秀実氏七回忌追悼) 清水山-將軍塚	11/17(日) 9:00 京阪五条駅 五条大橋東詰北側集合	井戸澄夫(810) (822-9175)	五条大橋…清水寺…清閑寺…清水山…將軍塚…粟田口
備考 山頂でうどんを作ります。(1人 200円)紅葉を楽しみましょう。			

<b>第2109回★★</b> 鷲ヶ岳 1,671.6m	11/23(土)～24(日) 23日 12:30 壬生集合	鷲見敏一 (643-3391)	23日京都東IC—宮IC —美並—高鷲村(民宿泊) 24日高鷲村—鷲見村—鷲見 川沿いに邇上—田代—立 石キャンプ場…鷲ヶ岳 (往路下山)
マイカー山行のため参加者は事前に担当者まで			
<b>第2110回★★</b> 能登ヶ峰	11/24(日) 8:00 壬生厚生会館前	岡田茂久(790)	京都～栗東～土山～鮎河～ 鹹川～能登ヶ峰～鮎河～大 河原(露天風呂)
カヤトと笹原の続くなだらかな山稜に鹿の楽園を訪ねて、帰途は露天風呂でのんびりしたい。			
<b>第2111回★★</b> 鈴鹿山脈 綿向山 1,110m	11/30(土)	馬淵拓巳(507)	
余裕があれば竜王も…… 下山後、温泉を楽しむ予定です。 マイカー山行ですので、事前に担当者まで連絡をお願いします。			
<b>第2112回★★</b> 人形山(1,726m) 富山・岐阜県境	11/3(日)～4(月) 3日 8:00 壬生集合	井戸澄夫(810) (822-9175)	京都東IC—郡上八幡—御 母衣ダム—五箇山(泊)… 人形山(往復)
<b>今月の集会</b> 日時 11月8日(金) 18:30 場所 厚生会館4F 大教室		<b>企画運営委員会</b> 日時 11月20日(水) 18:30 場所 厚生会館4F 大教室	



朝晩の冷え込みで、薄いふとんでは少し寒くなってきた。いよいよ山は秋のハイキングの季節となってきた。近郊の山々では秋の青空と紅葉を楽しみに大勢の老若男女が押しかける。

最近では車での登山が多くなっているが、日祝日の出町柳のバス停は相変わらずの賑わいである。中高年の健康志向登山ブームにのって、鉄道会社などが主催しているハイキングも大人気である。しかし、日帰りで気楽に登れる都市近郊の山は長蛇の列が出来るほどであるが、一步奥へ入ると静寂が支配している山々が圧倒的に多い。北山も福井県境近くまで行くと、道のない山や、地図には載っていても荒れ果てて歩けない道が多くある。小生は若い頃バスケットボールをしていたが、先日、久しぶりに昔の仲間達に会った。さすがにバスケットボールを続けている人はいなかったが、多くが登山をしているということで、山談義に花が咲いたものである。山を歩くということが、体力の維持と気分転換に最適であるということが共通した認識であった。

長寿社会となり、長い老後をいかに有意義に過ごしていくかということが21世紀の国民的課題となっているなかで、自然に親しみながら、健康を維持するのに最適な山歩きが中高年に浸透しつつあるのも道理である。

10月30日には都ホテルにおいて、OB部員の坂井久光氏の一等三角点548座（標高500m以上）完登を祝う会が催される。日本全国から100名以上の方々が、駆けつけてくださる予定である。そのうち半数近くは坂井氏と同様に山登りに情熱を燃やす老境に差しかかった人達である。まさに老人パワー全開の登山界である。現役部員も負けずに頑張りたいものである。

(H.8.10.15 記 S.I.)

## 大 倉 山 三 等 1,004.6 m

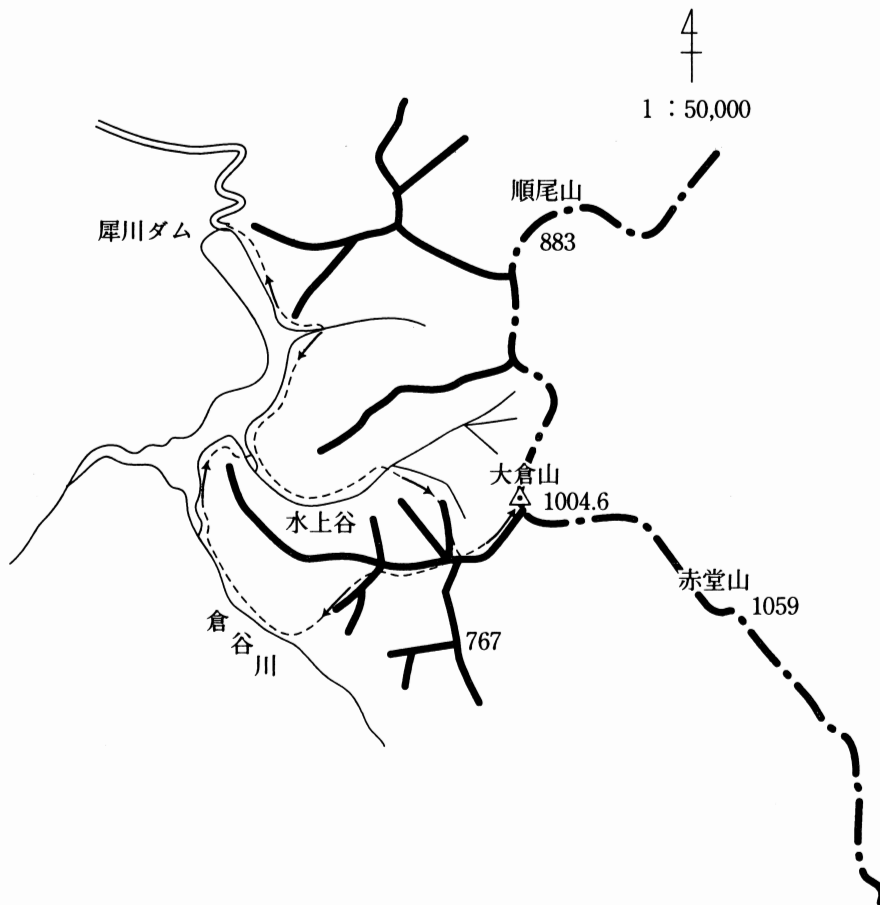
大 倉 寛 治 郎

金沢市と福光町の府県境にある大倉山へ登るのは、94年12月和田山町にある大倉部山に続いて2山目となる。参考資料となる「石川の山、越中の百山」にてルート検討を行うが、どのルートも登山の対象と成っておらず苦勞を覚悟で三橋さんと私の車で出発。

10時5分名神東ICへ入る。途中尼御前SAで昼食を取り、北陸道金沢西ICをでる福光町の刀利ダムの上流中河内より山頂を目指しダムに着くとトンネルを抜け少し行くと通行止めとなっていた。工事現場の方に状況を尋ねると100mほど先より崖崩れの復旧工事のために通行出来ないとのこと、やむをえず金沢市側からのルートに変更する。先程走行して来た道を田子島町、瀬領町から犀川沿いに走り犀川ダムの管理事務所へでる。ここより先は通行止めである。

ダムサイトのヘリーポート下の駐車場に車を止め、職員に大倉山の登山路を尋ねるが「ない」と言われた。釣りに着ていた人に尋ねると大きな二番目の（水上谷）から谷を詰めれば行けると教えをこう。時間もあるのでルート確認のためにその谷へ向かう。やはり道は生い茂り細い道で一部崩壊しているところもある。目的の谷に着く。尾根を登るので、取り付きの所を明日に備え刈りダムへ戻る。夕食をとり午後8時過ぎには車の中で寝ることにしてシートをたおしベッドにして快適なルームに変身する。

9月1日午前5時過ぎに起床朝食を摂る。本日のルートの確認をして出発。昨日刈った取り付きの所に着く。尾根はそうとう苦勞が強いられそうで谷に行くことに変更する。幸い二人とも長靴をはいていたので時間短縮のため詰めることにした。谷は快適であったがアブと虫に悩まされた。しばらく行くと小さな滝は登る事が出来たが、二つ目の落差7～8mのナメは左側を巻き滝の上部へと出る。後は心配するほどのことはなく大きな谷の出合に着く。ここからは生い茂り釣り人も入らないようでひとつ手前の右の尾根へ取り付く。少し登ると岩壁が数箇所あり茂みを利用しながら880mの尾根の分岐に着く。ここからは960mのピークを登り忠実に尾根筋を外さないように行くが雑林が行く手を阻む。何とか大倉山の広い大地に着く。三角点は府県境の切り開き所にあり、我々を歓迎してか小雨もやみほほ笑みの太陽が雲の切り目から少し差してくれた。出発から5時間40分で大倉山の山頂に立つことが出来た。資料によると大変展望がよいと書かれていたが、現在は樹木が生い茂り展望は望めない。一人では到底来れない奥深い所で感激も今までにないものを感じた。乾杯のビールの味も一味違い、山頂より携帯電話で自宅に報告をいれる。昼食と記念写真を写し下山する。雨が降りだし往路来た道を尾根の分岐まで戻り、下まで伸びている尾根を下る予定で進んだが行く手をさえぎる茂みと霧で進路を阻まれ、尾根を一本読み違え大きく迂回して南西の倉谷川に下ってしまった。数回徒渉を繰り返し左からくる谷の出合



より刈り込まれた道があり、それを行くと集落跡を残す基礎と、お墓があった。さらに進むと右へ渡る吊り橋がある。その橋を渡り対岸へ、ここからは犀川ダムの上流で大きく回り込むと朝登った水上川の出会いへ出る。ここからは来た道をダムまで戻り山行を終える。

【参加氏名】 三橋 勉, 大倉寛治郎

【コースタイム】

8月31日(土)

名神東IC 10:05 北陸道金沢西IC 13:19 刀利ダム 14:15～47 犀川ダム 15:30

9月1日(日)

犀川ダム 6:20 水上谷出合 6:55～7:00 7～8mのナメ滝 7:50

大きな谷の出合い高度500m 9:38～45 尾根の分岐高度900m 11:00～15

大倉山三角点 12:00～50 谷へ出る 14:55 倉谷川へ出る 15:10 吊り橋 16:55

犀川ダム 17:50

【第2097回例会】

丁岳 一等 1,145.6m 鳥海山（七高山） 一等 2,229.2m

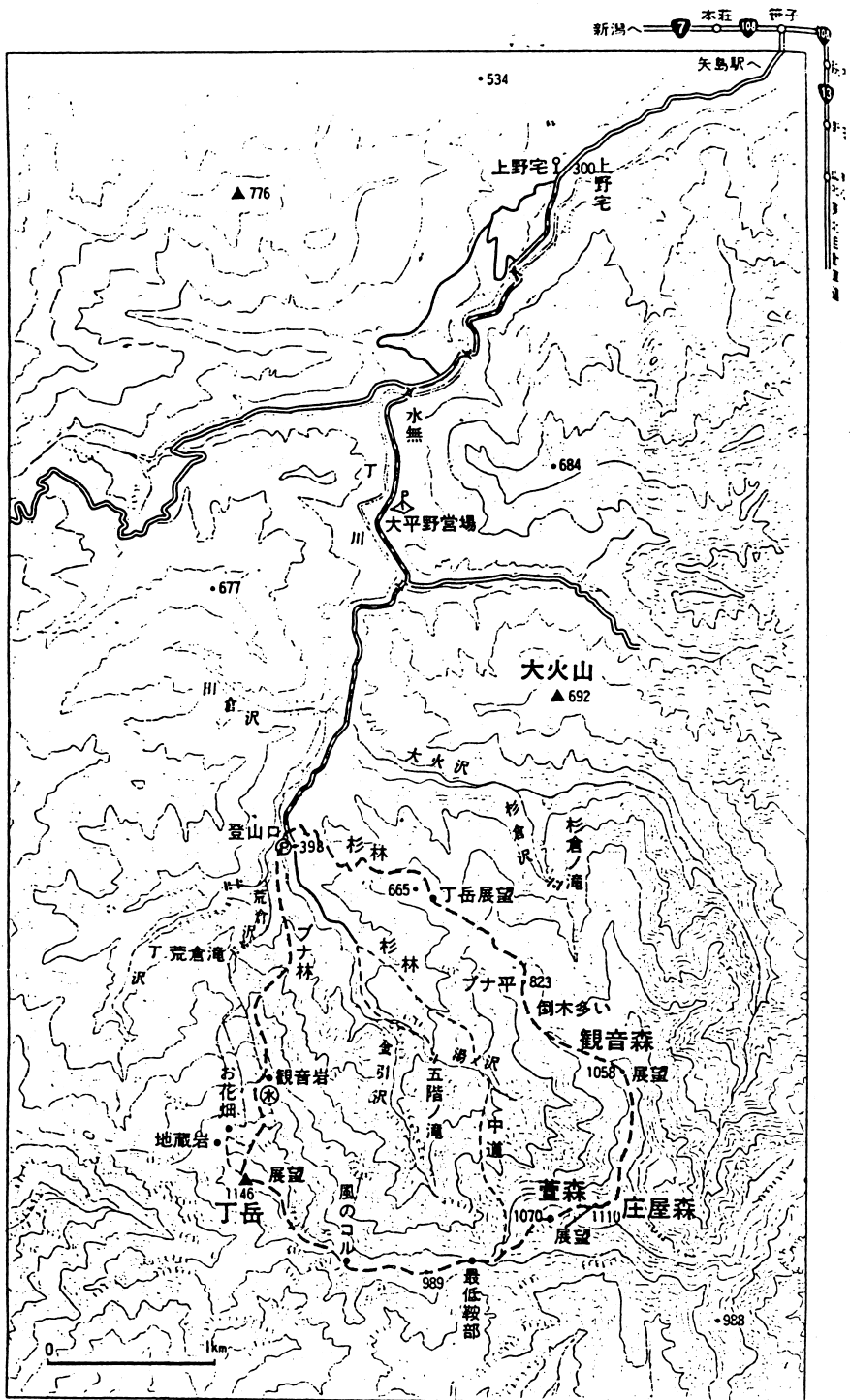
大倉 寛治郎

この山も長年心に秘めた山の一つである。この度全日本登山体育大会の開催に参加をすることになり訪れる機会をえた。

丁岳は言うまでもなく有名な鳥海山から連なる山で秋田県、山形県の県境を形成する山地。丁岳を中心として東西に連なる。男加無、女加無などの岩峰、岩壁が多い。甌山はかつて経験者最後の修業地としてにぎわった。又山中に咲く黒菊地にまつわる悲恋物語の伝説、江戸末期から明治にかけて実在したという丁行者の話など地元の人に親しまれロマン香る所でもある。地元では毎年6月1日に山開きをすると宿の方が教えてくださった。

9月12日（木）京都駅20時51分発の日本海3号で出発。久しぶりの列車の旅である。寝台車で十分な睡眠を取り、13日（金）朝8時1分羽後本荘駅に着く。予約していたレンタカーを借り鳥海町上野宅へのどかな風景、黄金色した田園を眺め車を上野宅へと走らす。上笹子の集落を抜け採石場の横を通り丁川にそって走ると大平野営場がある。さらに林道に入ると林業の作業小屋がある。橋を渡り右へ川沿いに行くくと丁岳登山口の標識がある。車をすぐ先の広場に駐車する。今回は時間の都合で回遊コースを変更して尾根コースを往路下山で出発。標識の所を少し下ると川を渡る大変立派な橋があり、すぐに左の尾根に取り付く登山路は大変良く整備されている。一汗かくころにはブナ林が多く見られる所で小休止、さらに登って行くと大きな倒木のブナの下をくぐり尾根を回り込むと対岸に荒々しい峰の観音森、萱森らが望める。緩やかな登りを行くと観音岩の標識のところに着く。岩は確認できなかった。少し行くといったん下り谷を渡り右からの尾根へ「ここが最後の水の補給出来る場所」ここからは、階段の登りになるがここが最後のガンバリ坂、を登り切ると路も緩やかになり、「この丁岳一帯にはブナ天然林をはじめキタゴヨウ、クロベなどの針葉樹や亜高山性のサラサドウダン、ダカネザクラ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツなどのほか高山植物も分布しております」の案内標識があり、高度がますにつれ高山植物も数多く観察できる。登山路も緩やかになり右からの府県境の分岐を過ぎ左へ回り込むと祠と、丁岳一等三角点の山頂につく。雲と風が強く遠望は望めなかったが、鳥海山が雲の切れ目から望むことが出来た。記念写真を写し休憩後往路下山する。登りには見られなかった滝「荒倉沢に懸かる荒倉滝で二段有り、スダレ状の見事な滝が樹林の間から望めた」。空は今にも降り出しそうであった。登山口へ戻り本日の一夜の宿丁荘へ着き本日の山行を終える。

9月14日（土）は玉田溪谷にある法体の滝を見学して、レンタカーを羽後本荘へ戻し、由利高原鉄道で矢島駅からタクシーで全日本登山体育大会開会式場の鳥海町町民会館紫水館へ着く。開会式に出席。各界の歓迎の挨拶あと今回のテーマ「四季豊か、鳥海、爽快、日本海」について



講演が行われた。終了後計画輸送で各コースに分かれ国民宿舎鳥海荘の宿舎へ、夕食後登山準備を行い明日の登山に備え早々に床に着く。

9月15日(日)午前6時朝食した後、昼食と行動食を受け取り計画輸送にてAコース百宅口(大清水)登山口四合目へ、約一時間鳥海山の裾野を走り駐車場に着いた。ここで班編成を行う。我々はB-4班で、滋賀、京都、香川の22名と班長、副班長24名で行動する。ちなみに総勢は(約285名)でした。各班別に別れ、班長照井さんから副班長高橋さんを紹介後本日のコースの概要、注意事項、等の説明後A隊、B隊の順で大清水小屋の所を出発した。

隊列が長く思う様に進むことができず少々不満が残る。5合目大倉の所では大倉滝(別名三条の滝)を見ることができた。登るにつれ高山植物ミズバショウ、シラネアオイ、チングルマ、シャクナゲ、ショウジョウバカマ、イワカガミ、チョウカイアザミ、エゾオヤマリンドウの花、ミヤマリンドウの花、等の植物を観察できた。屏風岩、唐獅子平の避難小屋は現在新築工事中でした。霧ヶ峰平手前の雪渓の所で小休止後、足元もガレ場となり、慎重に登って行くと百宅口の分岐に着く。時間の都合で最高峰新山は中止となり、残念だが天候が悪く展望は出来なかった。下山は猿倉口へ七高山(2,229.2m 一等三角点)で記念の写真を写し猿倉口へくだる。登りと違い足元もガレ場と岩のミックスで雪渓も二か所通過して、八合目の七ツ釜で時間の都合で下山地を矢島口の祓川へ変更となる。雪渓を下り賽の河原、竜ヶ原湿原の木道を渡ると祓川ヒュッテ、登山口の駐車場へ着く。山頂は天気で下界は小雨が降りだした。地元の心としてトマトを一個頂いてバスに乗り込んで宿舎へ戻った。着替えをして送迎バスにて歓迎会場の町民会館「紫水館」で歓迎レセプション後宿舎へ戻り本日の大会登山を終える。

#### 【参加者氏名】

坂田利春、津田 実、森本清一、大倉寛治郎、他1名

#### 【コースタイム】

9月12日(木) 京都駅発午後8時51分発日本海3号

9月13日(金) 午前8時01分羽後本荘駅へ着く、～25分、丁岳登山口駐車場

10時30分～45分、標高650mのブナ林所11時20分～27分、

谷を渡り尾根へ取り付く(最後の水場)11時28分、丁岳の案内標識12時10分、

丁岳一等三角点1,145.6m 12時42分～13時05分、谷を渡る(最後の水場)13時32分、

登山口14時35分～45分、丁荘14時55分

9月15日(日) 宿舎6時55分、大清水駐車場7時55分、大清水キャンプ場広場8時00分

～20分、五合目9時03分～10分、六合目9時48分～55分、七合目屏風岩10時22分、

八合目10時53分～11時00分、川を渡る(雪渓が残っている所)11時10分～20分、

九合目11時54分、百宅口分岐12時43分～13時00分、七高山13時04分～30分、

九合目氷の薬師14時23分、八合目七ツ釜15時10分、七合目御田15時30分～45分、

六合目賽の河原15時59分、祓川ヒュッテ16時26分、祓川駐車場16時30分



## 湯 船（点名）△ 500.7m

大 槻 雅 弘

前日から、台風17号の接近で天候は悪くなると予報され、例会は中止せざるを得ないと考えていた。もし、まともに日本に上陸しなくとも、一日中雨模様であろうと。ところが21日朝、雨は降っていないし、まだそれどころか南の空は明るい。例会に出している五泉は、京都北部であり雨100%の予報であるが、急遽南部方面の地図を広げ、府下182座未登を調べる。奈良1/5万図で「湯船」がまだ登っていなかった。

この湯船は、標高が500.7mで182座のうち最低の高さなのである。実はそれで、小生の182座完登記念登山に、と考えていた山なのである。でも、機会というものは無理につくる時があれば、成行きて、また意に反してという時もある。いずれにしても、理由はあとからつけることにして、湯船を登ることにした。

10時前の遅い出発であったが家をあとにした。その山に、久し振り娘と愛犬がつきあってくれた。

一路、車は奈良の手前木津の泉大橋からR163を経て、井平尾から湯船の清水橋で車止とした。橋のたもとの家の人に駐車をたのみ、和束川を渡りスタートする。

清水橋を渡った所で、3人の老婆が立話をされていたので、山の様子や山名を尋ねる。しかし、返ってくるものはどうも要領を得ぬし、「何故あんな所へ登るのか」と逆に問われる。そして、連れてくる犬は「手入が大変か」とか、山のことより犬の話題になってしまった。そのうち、近くにいた犬が吠えて、村中の犬を呼び込み、小さな谷間の集落に犬の鳴声が響いた。

気をつけて登るようにと、親切な言葉で別れたが、コースは、結局当初自分で図上で描いた所を登ることにした。

村はずれの家の、車道をまたいだ茶畑の中を越え杉林に取り付いた。20～30mも登ると踏跡のある尾に出た。予想していた通り、尾には径があり、こちらがルート選びをしなくとも、犬が笹の中の径を先導してくれた。しばらく、急坂が植林帯の中を一直線に続くが、これも一呼吸で、やがて自然林の落葉を踏む径になり、陽の当たる所で腰を下ろし一服した。

久し振りに山に登る娘は、小さい頃はよく山に登っていたし、ヤブ山も経験しているので「今日は径がある」と喜ぶ。初めての人なら、山登りとは、愛宕山のような道を当たり前と思い、ヤブ山等は、山登りの対象でないと考えるだろう。しかし、ヤブ山は長年山登りして初めて良さが解る。先輩の伊藤、坂井氏の山行スタンスがやっと理解出来てきたようになり、最近自分も一人立ちで山に登れるようになってきたのかなァーと。そんなことを思いながら腰を上げた。

径は、ピーク419の平坦な所から東へ振って、少し倒木や草で塞がれた尾を外し、トラバース

気味に続いた。それもしばらくで、やがてCa450ぐらいから、ほとんど水平にしっかりした径が尾に続く。

三角点へは、うっかりするとその歩きやすい気分のいい径にさそわれ、分岐を通り過ぎてしまう。地図をよく見ると、真南に方向を変え100m程進むと三等三角点へ出た。

標石の周囲は雑木に囲まれているが、少し開けた所があり、今にも雨が降り出しそうな空ではあったが、昼食を摂ることにした。

こんな山は、誰も訪ねる者はないだろうし、山頂は何もなくきれいだろうと思っていたら、山名板が一本木とか湯船とかぶら下って人の跡が結構うかがえた。それに加えて、標石も新しいもので、苔むした古い石は見る事が出来なかった。182座最後の山と思ったヤブは、もう新しい時代にすっかり変わろうとしている。何か思い入れとは反対に、山頂をあとにした。

#### 【第2099回例会】

### 果無山脈 冷水山 (1等△ 1,261.7m)

井戸澄夫

9月21日 大型台風17号が近づいているというのに、予定通りの出発は、登れなくとも嵐の中で温泉につかって帰ればよいという程度の気持ちである。高野山奥の院に参拝し、高野・龍神スカイラインで護摩ノ壇山へ登る。護摩ノ壇山(1,370m)は和歌山県の最高峰ということであるが、駐車場から20分程度で山頂に立つ。風は強いが雨はなく、台風はどうやら避けてくれたようである。龍神温泉の露天風呂でくつろぎ、「丹生ヤマセミの郷」で幕営した。

9月22日 5時起床。雨はない。ゆっくりと朝食をとり、7時に出発。地図で見る林道が車で入れるのかどうか心配したが、心配無用のスーパーハイウェイが果無山脈の尾根まで通じていた。まず、三等三角点安堵山(1,183.7m)へ登り、次に今例会の目標、一等三角点冷水山(1,261.7m)に登った。台風の影響で北から南へ強風が吹き荒れていた。1時間程のあっけない登高であったが、山頂からの眺望は果無山脈の名前のように、果ても無く山なみが幾重にも重なっていた。これが麓からの登山であれば、眺望が開けたときの感慨はさぞかしと思われる。山頂近くまで林道が通り、登りやすくなったことと反比例して、登山の感動は薄れていく。ましてや山影に隠すように山積みされた大量の古タイヤには、登山の感動に冷水を浴びせるようなものであり、これもまた山名の通りであるのか？

下りは十津川村へとたどり、上湯の川床の露天風呂で汗を流した。野猿おまんで遊び、谷瀬の吊橋も楽しんで、帰路は18:00であった。

“ 山脈の果て無き国の果ての山

越えても見ゆる 果て無き山脈 ”

澄夫

【コースタイム】

9/22 7:00 丹生ヤマセミの郷——坂泰隧道——尾根 7:30 ---- 7:45 安堵山 ---- 8:00 尾根  
---- 8:30 黒尾山 (1,235m) ---- 9:00 冷水山 9:30 ---- 9:45 果無橋 ---- 10:15 尾根

【参加者】 竹田 勉, 山元誠一, 山岡昭弘, 清水康裕, 井戸澄夫

【第2100回例会】

鈴鹿山脈 藤原岳 1,120m

馬淵拓巳

久しぶりの山行だ。4月に娘が生まれてからというもの、忙しく、通勤電車の中で山や釣りの本を読んで、遊びに行きたいなと思っていた。

朝8時30分、JR南草津駅前に集合。付近で食糧の買い出しを済ませ、名神高速道路を栗東インターから関ヶ原インターへと向かう。

途中、いつものことながら、伊吹山が雄大で美しい、その山容を見せてくれる。

関ヶ原インターを降りて、国道365号を南に下がり、目的の登山口付近に着いたのが11時。

藤原岳頂上へは、大貝戸登山口からの表参道を登る。登り始めてしばらくの間は、植林の中の登り道が続くが、8合目くらいからは、雑木林の中を登ることとなる。紅葉には時期がまだ早いですが、それでも、心地よい汗をかきながら雑木林の中を歩くのは気持ちがいい。

小休止を何度かまじえて、2時間半ほどジグザグの登山道を登りつめて、ようやく、避難小屋(「藤原山荘」)のある高原台地の笹原に出た。

その避難小屋の中で、昼食のうどん鍋をみんなで囲み、そしてビールで乾杯。おいしい。

藤原岳の頂上は、非常に分かりにくく、北側に1つ、そして南側に1つそれぞれ頂が見える。さて、どちらが頂上なのかが。地図を見ても明記されていないし、ガイドブックにもはっきりと書かれていない。近くにおられた、以前に藤原岳に登ったことがあるという方に尋ねることで、ようやく、南側の低い方の頂が頂上であることが分かった。ちなみに北側の頂は天狗岩、そして藤

原岳頂上は展望丘と呼ばれている。

早速、頂上へと向かう。かなり深い笹をかき分けながらのアタックで、ちょうど同じ鈴鹿山脈の雨乞岳頂上付近を思わせる。

20分ほどして、頂上に到着。頂上は360度のパノラマが広がるが、あいにく、空がかすんでいて、期待していた海（伊勢湾）が見えないのが残念。それでも、南北に続く鈴鹿山脈の山並みが見渡せる。

下りは、登りと同じ表参道を下山。帰り道は、高速道路を利用せず、国道を南に進み、鈴鹿スカイラインを通して、国民宿舎「かもしか荘」で露天風呂を楽しむ解散した。

【参加者】 三橋，馬淵，他3名

【個人山行】

## 日本百名山 奥多摩奥秩父

梅津営業所 竹村芳廣

9月1日 20時30分、自宅に早川さんに車で来て貰い、石野さんの家へ向かう。今回も昨年と同じメンバーでの山行きとなった。名神に中央自動車道を乗り継ぎ。

9月2日 須玉で高速道路を降り国道141号を清里を過ぎ梓山から林道に入る。高原野菜畑では、まだ3時と言うのに所々で電気を付け、もう野菜の収穫をしている。畑の終わりをまだ林道を詰める地道の悪路で慎重に進む。3時30分、毛木平に着き仮眠をする。5時30分、腹ごしらえをして身仕度を整えて6時15分、いよいよ山道に入る。千曲川源流遊歩道の標識を頼りに進む。あまり勾配も無く歩き易い道で、寝不足のせいかうつらうつらしながら歩く。千曲川水源地に8時50分、分岐を越え甲武信岳2,475m（甲武信岳からは、千曲川、荒川、笛吹川、三つの川の源流が出ている。）9時50分着く。十文字峠へ回ることにした。頂上からの下りは、行きしなど違いかなり勾配がきつくなり下げて、又かなりの登りだ。三宝山2,483.3m10時43分を過ぎ大山12時32分に着く。途中には、尻岩やクサリ場ハシゴも有りかなり苦労をした。十文字峠（小屋）に13時05分、八丁坂ノ頭を越えてようやく毛木平に14時45分着く。車で明日行く瑞牆山ふもとの増富温泉の林道をつめ終点の瑞牆山荘で一泊する。

9月3日 瑞牆山荘7時17分出発。樹林の道を登って林道を渡り急斜面を行くと、富士見平8時05分着く。右へ行けば金峰山、ここは左に行く。ザックを置き行動食とお茶とカメラを早川さんが持って来たアタックザックに入れ早川さんに持って貰う。緩やかな斜面を下って天鳥川

に出る。川を渡りいきなり急登で木の梯子を登り岩のゴツゴツした面や倒木を跨いだりして登ると、目の前に巨岩が現れ、これを横巻きして又急登を進むとやがて岩峰の瑞牆山2,230.2m 9時53分に着く。360°の展望で雲の間から富士山も見える。記念撮影をして降りることにした。天鳥川を過ぎ富士見平に戻る。11時45分昼食にラーメンとカレーを食べた。13時出発。深い樹林の道を登り大日小屋を過ぎ、大日岩14時30分金峰山からの下山者と出会う。金峰山を13時に降りて来たと言う。木の根や岩のゴツゴツした樹林帯をまだ進む。幾つかのピークを越えると、目の前に大きな岩が見えて来た。これが五丈石（御像石）で金峰山の象徴である。小屋への分岐を頂上へ向かう。五丈石を横巻きして、金峰山2,599m 16時30分着く。まずビールで乾杯。（秩父の最高点はこれより僅か数米高い奥千丈山岳に譲るにしても、その山容の秀麗高雅な点では、やはり秩父山群の王者であると金峰山を深田久弥の百名山で讃えている。）金峰山小屋17時着、二泊目。

9月4日 小屋を7時出発し、金峰山7時30分、昨日登った岩峰の瑞牆山も見える。五丈石を横巻きして下る。大日岩9時50分着。此处で五、六人がロッククライミングを楽しんでいる。大日小屋を過ぎた辺りで数人の人とすれ違う。富士見平に10時40分着、数人の登山者が休憩していて可なり年配の人もいて、瑞牆山のほうに歩いていった。富士見平を後にして下ると、四、五人が大きな駕籠を持っている。中に何が入っているのかと覗くと、色々なキノコ類が入っていてこれを料理して食すると言うことである。瑞牆山荘11時40分着。昼食にラーメンをして。車で増富温泉へ下り塩山市より裂石温泉から大菩薩登山口へ向かう。

裂石温泉から林道終点の福ちゃん荘にて一泊するつもりでいたが、福ちゃん荘が閉まっているので直ぐ下のロッジ長兵衛に行くが、今日は店を締めて下山をすると言うので仕方なく裂石温泉へ下り泊まることにした。宿屋の人に朝食をおにぎりにして貰い、明日は早立ちすることにした。

9月5日 4時30分起床して宿屋を5時15分出る。昨日来た林道終点の福ちゃん荘に車を置く。6時登山開始する。標識があり右を行けば大菩薩峠で、此处は真つすぐ登ることにした。急登の樹林帯を進むと、樹林の間から富士山が見える。雷岩を過ぎ、大菩薩嶺2,056.9m 7時10分着。記念撮影をして、雷岩に戻り旧峠を越え大菩薩峠8時50分着く。（峠には介山荘があり此处で中里介山が小説大菩薩峠を書いたとされている。）峠より福ちゃん荘に9時着く。裂石温泉より国道411号に入り幾つかの峠を越えて、青梅街道を1時間30分走りお祭りより林道に入る。（お祭りの入口のカンバンが小さいのでもう少しで見落とすところだった。）地道の林道でスピードが出せない。途中で登山者を追い越し所々で溪流釣りをしている人がいた。林道終点に車を置き、身仕度を整えて山道に入る。11時50分、道幅が狭いが歩きやすい道で30分程で三条ノ湯を過ぎ穏やかな登りを進む。周囲は原生林に囲まれていて、三条ダルミに出る。14時32分、頂上へあと20分ぐらいの所で、頂上よりの下山者六人と出会う。話をしていたら登りしなに三条ノ湯での宿泊を予約して来たと言う。六人の人に下山をしたら三条ノ湯での、僕らの宿泊の予約を依頼した。（今日は雲取山荘で泊まる予定をしていたが、明日の行動を考えると三条ノ湯へ下ることにした。）頂上へはかなり急登で勾配がきつい。あえぎ喘ぎ登るとやっと、東京都の最高峰雲取山2,017.1m 15時20分着。（頂上には避難小屋に公衆便所も設置してある。）記念撮影をして早々

と下ることにした。15時40分、三条ダルミを過ぎ一気に下る。歩きやすい道で時間が稼げる。途中数人の人が休憩している。近付くとなんと宿泊を依頼した人達で一言二言挨拶をして追い越す。三条ノ湯17時着く。早速宿泊の申し込みをしたら小屋の人にもう少し早く小屋に着くようにと言われた。六人は3～40分後に小屋に着いた。風呂に入ろうとしたら客が少ないので風呂は一つしか沸かさず、男女1時間置きに入ることになっていて、17時台は女性の番で少し待つことにした。冷泉で沸かした湯であって湯がぬるぬるしていて、やっぱり温泉だ。風呂場では、シャンプに石鹼の使用禁止、東京都の水源地なので環境に優しくと張り紙があった。今日の宿泊は例の六人と二組の夫婦と僕らだけだ。

9月6日 三条ノ湯を7時出発し30分足らずで林道終点に着く。百名山の奥多摩奥秩父は、六つあるが両神山が残ったのが心残りだ。

【参加者】 錦林リーダー 早川誠一 石野秀秋 梅津 竹村芳廣

## 例 会 報 告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
2095 (再掲)	大倉山	8月31日～ 9月1日		大倉寛治郎	三橋 勉	(別稿詳報)
2097	東北の山 丁岳, 烏海山	9月12日～ 9月16日		大倉寛治郎	津田 実, 坂田利春, 森本清一, 他1名	(別稿詳報)
2098	(変更) 湯船(点名)	9月21日		大槻 雅弘	他1名	(別稿詳報) 五泉を変更しました。
2099	果無山脈 冷水山△I	9月21日～ 9月22日		井戸 澄夫	竹田 勉, 山元誠一, 山岡昭弘, 清水康裕	(別稿詳報)
2100	鈴鹿 藤原岳	9月28日		馬淵 拓巳	三橋 勉, 他2名	(別稿詳報)
2102	蓮ヶ峯	10月5日		大槻 雅弘	和田良一	(次号報告)

## 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
日本百名山 奥多摩奥秩父	9月1日 ～6日		竹村芳廣 他2名	(別稿詳報)
城丹国境 祖父谷峠～笠峠	9月14日	晴	大槻雅弘 岡田茂久 方山宗子 三橋 勉他	久しぶりの城丹国境，飯森山から天童山の 主ルートを通り笠峠まで足を伸ばしてみました。
雲仙山 1,084m	9月16日	晴	鷺見敏一 壽末子	上丹生より谷山谷の沢ルートを取り醒ヶ井 養鱒場へ下山。 ススキとクマザサに覆われた山頂一帯は、 銀色に波打ち、トリカブトの群落が目に見え ていた。
音羽山～千束山	9月16日	晴	岡田茂久 F	音羽ダムの建設工事で山の様子が気になっ て
丹沢 大 山	9月21日	曇	岡田茂久	束の間の時間を利用して計画したが、台風 接近のため、塔ヶ岳～丹沢山の予定変更。
播州 暁晴山 小田原川本谷遡行	9月28日	晴	岡田茂久 方山宗子他	谷の入口まで車を乗り入れ駐車，溪相は明 るくて滑らず，比較的易してほとんどの 滝は直登できる。プールのある滝が多く， 夏ならばゴキゲンの谷である。 遡行終了の暁晴山からは，路線バスで駐車 地点まで。
三上山，阿星山	10月6日	晴	岡田茂久 F	区民運動会を午前中でエスケープして
比良 岩阿沙利山 686.4m	10月10日	晴	鷺見敏一 〃 壽末子 他3名	久しぶり，比良山(「総称」リトル比良を 縦走)に登る。チャレンジ，ハイキングの 催しと重なり，寒風峠の周辺は，参加者で 大変な賑わいであった。

# 報 雜

## △△△ 10月の集会

日 時 10月7日(月) 18時30分～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 (OB) 坂井, 三橋, 渡辺, 鷺見 (梅津) 吉田 (高速) 大倉  
(本局) 岡田, 大槻, 方山, 井戸, 山元, 馬淵 以上12名  
内 容 例会報告, その他

## △△△ 9月の企画運営委員会

日 時 9月19日(木) 18時30分～  
場 所 厚生会館 4F 大教室  
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋, 馬淵  
内 容 11月例会予定  
岳連報告ほか

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

9 月 号 比良山岳  
10 月 号 山友, 北山, 京都山岳, 近畿山行, 青嶺, 趣味の登山, 木雞, 比良山岳

## △△△ 山岳連盟行事報告

自然(地学)観察会 9月8日(日)

山岳連盟自然保護委員会の主催で、年に数回が開催される自然観察会で、今回は地学の勉強をしました。

当日は総勢40数名の参加を得て、鞍馬寺から貴船神社まで歩き、講師から賀茂七石の説明、鞍馬石、貴船石の見分け方、色々の石の生い立ちを教わり、途中の参道では、溶岩の流れが海中に入り込んで、急激に冷やされて生成される枕状溶岩の観察。天狗の玉子の生い立ち。奥の院では敷石や石垣に数多くみられる古代の海中生物の化石をルーペで観察。自然の宝庫といわれる鞍馬山で興味深い一日を過ごしました。

京交参加者 井戸澄夫×2, 岡田茂久, 方山宗子, 国友 修, 山元誠一F×3,  
他3名





家庭用品 } 総合卸商社  
衛生用品 }

## 日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地  
☎601 電話 (075)672-6101(代)  
FAX (075)661-7332

## 八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4  
TEL (075) 571 - 1108

帆布・濾布  
テント・シート  
雨合羽

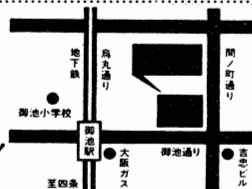
## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)  
西大路営業所  
下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カーブをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



LODGE 株式会社 **ロッジ**

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US製用品  
ポータブルカフト用品

**mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548  
営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ

葦よしのすい隨のそから天井を覗く：②1

TVで「各地に初冠雪」と報じていた。初冠雪で思い浮ぶのが白馬岳。時期により山の雪の形が白馬の走る形に見えるとして名付けられたというが、地元では、春この残雪で農耕の始めを、秋に積雪で穫り入れを思うという。ところで、地元の古老は「しらうま・しらま」というが最近よく耳にするのは「はくば」。「○○村」を沖繩風に「○○ソン」と読むアナもいる。正否は別として、判ればいいという感覚が多すぎるのは考えもの。

制作 株式会社 北斗プリント社

〇七五―七九一―六二二五



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

# 株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る(3軒目北側)

☎(075) 351-6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

**サンコークラフト**

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

平成8年11月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

**京交山岳部**